校長通信

止まり木

令和５年（2023年）
２月３日発行
第３３号
大阪市立横堤中学校

鬼は～そと　福は～うち

2023年の節分は、今日、２月３日（金）です。太陰太陽暦では立春に最も近い新月を元日とし、新年の始まりであることから、一般的に立春の前日に節分の行事が行われるようになりました。では、節分とは具体的に何をする日なのでしょうか。一般的に**邪気を払い、無病息災を願う行事**、といわれています。いにしえ（遠い昔）より「季節の変わり目は邪気が入りやすい」と考えられ、また「この時期（2月上旬）はまだ寒く体調を崩しやすい」ことから新年を迎えるにあたって、邪気を祓（はら）い清め、一年間の無病息災を祈る行事として追儺（ついな）という行事が行われてきました。元々の発祥は中国ですが、大陸文化が広く取り入れられた平安時代、大晦日に宮中行事として追儺が行われるようになったと言われています。これは疫鬼などを追い払うもので、大晦日に陰陽師がきて厄や災難を祓い清める儀式を行いました。古くは「続日本書紀」のなかに、疫鬼払いとしての記述が見られます。宮中行事としての追儺は徐々に衰退し、江戸時代には行われなくなったといいます。しかし、いつの頃からか、追儺は豆をまいて鬼を払い無病息災を願う「節分」という行事として庶民の間に広まり、定着したのでした。この節分、２月３日というイメージが強いですが、２月２日や４日になる年も稀にあり、日にちは固定ではありません。近いところでは2021年は、なんと1897年以来124年ぶりに、２月２日が節分でした。もしかしたら、みんなも覚えていたのではないでしょうか。ちなみに、1984年は２月４日で、2021年はそれ以来37年ぶりに２月３日以外が節分だったのです。これは４年に一度のうるう年（２月が２９日ある年）と関係があります。もともと、**節分という言葉には、季節を分けるという意味**があり、本来は季節の始まり日である二十四節気の「立春、立夏、立秋、立冬の前日」のすべてを指しています。二十四節気は天体の動きに基づいていて、太陽と地球の位置関係で決まり、立春は太陽黄径が315度となる日。軌道周期は１年きっかりではなく、少しずつズレが生じていきます。４年ごとに１日増やしたうるう年を設定することで、帳尻を合わせているのです。今後はしばらく、節分はうるう年の翌年は２月２日、となるそうです。次回のうるう年は2024年なので、2025年の節分が２月２日ということになります。さて、立春を1年の始まりとしていた頃は、節分が現在の大晦日にあたるため、様々な年越し行事が行われていました。大豆を炒った福豆をまいて邪気を祓い、年の数だけ豆を食べて1年の幸せを祈る豆まきや鬼が嫌うとされる臭いが強いイワシとトゲがあるヒイラギを使い、　「柊鰯(ヒイラギイワシ)」を玄関に飾る風習などもそうです。「縁を切らない」という縁起担ぎで、恵方を向き願い事を思い浮かべ、恵方巻を黙々と食べる人もいます。

今年の恵方は「南南東」です。そして何よりもこの神秘的な宇宙のリズムの中で**たまたまこの時にこの地球に生まれ、この地域で育ち、横堤中学校で出会ったことは奇跡**だと思います。だからこそ、せっかく出会った仲間を大切にし、傷つけたり、苦しめたりすることのないように、今後も**人の気持ちのわかる横中生**であってほしいと思います。みんなが一人ひとりを大切にできるあったかい人に成長してくれることを心から願っています。

まだまだ、寒い日が続きます。体調管理、感染対策を忘れずに、健康的な日々を過ごせるように気を引き締めて、頑張っていきましょう。

みんなのもとにたくさんの福（幸せ）が来ることを祈っています。